

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	14-313	慶應義塾大学
題名(原題/訳)		
A comparative study of fixed tapering dose regimen versus symptom-triggered regimen of lorazepam for alcohol detoxification. アルコール解毒のためのロラゼパムの固定した漸減用法と症状より調整する療法の比較研究		
執筆者		
Sachdeva A, Chandra M, Deshpande SN.		
掲載誌		
Alcohol Alcohol. 2014 May-Jun;49(3):287-91. doi: 10.1093/alcalc/agt181. Epub 2014 Jan 8.		
キーワード		PMID:
ロラゼパム、アルコール離脱症状、入院治療		24407777
要旨		
<p>目的: 本研究は、アルコール解毒のためにロラゼパムの固定した漸減用法と症状により調整する療法を比較することを意図した</p> <p>方法: 我々は合併症を伴わないアルコール離脱の診断で入院した63名の連続して同意した男性患者を対象とする前向き無作為化二重盲式対照設定試験を行った。患者は、ロラゼパム投薬量の型に基づく2つの群にランダム化された:症状より調節する療法および(n = 33)一定の漸減用法(n = 30)。 アルコール離脱症状は、CIWA-Ar(Clinical Institute Withdrawal Assessment -Alcohol 修正版)で評価された。主なアウトカムは、ロラゼパム治療の総量と期間、そして有害事象または合併症の発生率であった。</p> <p>結果: 症状より調節する療法群で投与される平均ロラゼパム用量は、固定された漸減用量群(9.5 対 19.9mg、P < 0.001)でより有意に低かった。より高い最初の CIWA-Ar スコアのために、より有意に短い時間(47.8 対 146 時間、P < 0.001)だった。 有意差が、痙攣発作または振顫譫妄の様な合併症の発生率に関して、両方の群の間に有意な差はなかった。</p> <p>結論: アルコール離脱の症状引き起こされるロラゼパム治療は、より短い治療期間の間と薬物全投与量が少なく、一定の漸減用量と同程度に安全だった。</p>		